



＝ 第18号 ＝
2022年11月7日
新庄北高校
進路指導課発行
文責：氏居 恵美

「どこに行くか」と「なにをやるか」

個人的な話ですが、先日、昔担任をした元生徒から「教員採用試験に合格した」という連絡を貰いました。自己採点が終わったあとの誰もいなくなった教室で、前期の合格発表後に報告に来てくれたあとの昇降口で、人目を忍んで悔し涙を流していた姿を見てしまった身としては、ずっと目指していた所から不合格を突き付けられても腐ることなく、涙を呑んで進学した先でもぶれることなく、見事現役合格を果たした来春からの同僚を全力で祝福しました。

「どこに行くか(進学先)」はもちろん大切ですが、「(進学先で)なにをするか(どう過ごすか)」というのも同じくらい大切なことだと心に刻み直すと共に、改めて「第一志望がダメだった時の保険」をしっかりと考えておくことの重要性を認識した出来事でした。先の話で出た彼の場合は「教員になる」という第一目標があり、「採用試験の合格率が高い」という目線で併願先を考え、今回の結果に結びつきました。「行きたいところ(第一志望)」を明確にすることは大切です。それと同じくらい真剣に「もしもの時の保険(第二、三志望・併願先)」を選ぶことも大切です。進学後に「こんなはずじゃなかった」とならないためにも、受験生の皆さんは特にもう一度しっかりと考え、保護者の方や担任の先生と意思疎通を図っておいてください。また、1、2年次生の皆さんは、ゆっくり大学調べができるのは今のうちだけです。今までの「進路課通信」も参考に、大学・学部・学科、いろいろと眺めておくことをお勧めします。

11月1日といえば？

11月になりました。この「11月1日」という日は(一部の人にとって)とても重要な意味を持つ日です。なぜならば、この11月1日を皮切りに、総合型選抜の合格発表が始まり、そして学校推薦型選抜の出願が始まるからです。ということで、今回は「学校推薦型選抜」について簡単に説明したいと思います。

といっても、「推薦入試」と言われてみなさんがイメージするものときほど変わりません。この入試で大切になってくるのは「高校3年間をどれくらい頑張ってきたか」です。その「頑張り」を測る基準として、「評定平均」が用いられます。これは「3年間」の「(実技科目も含む)すべての教科」の平均である場合が多く、プラスして特定の教科・科目が特に優れていることを求められることもあります。一例をあげると、「評定平均4.0以上かつ国語と英語が4.5以上であること」みたいな感じです。この場合、「評定平均が4.0以上だけど、国語は4.2だった…」という人は出願できません。つまり、推薦入試とは、「3年間すべての教科を入試に関係ある・ない関わらず全力で頑張ってきた人」向けの入試方法であると言えます。また、評定平均と共に求められることが多いのが「3年間の出席日数」です。欠席が多い(おおむね10日以上)場合は出願できない大学もあります。つまり、学校推薦型選抜を考えている人は、1年次から「評定平均」と「出欠」を意識して準備をしていく必要があるわけです。

また、あたり前のことですが、志望する大学とのマッチングが大切です。「なぜその大学なのか」「そこでなにをしたいのか」、それがはっきりしていない人は残念ながら合格できません。時々「早く決めたいから」「学力じゃ入れそうにないから」といった理由で申し出る人がいるのですが、たいてい残念な結果になります。「志望理由書」の作成をし、推薦入試の対策を行い、受験する。これは大変な労力です。推薦入試を受けた場合、普通に勉強していた場合よりも共テの成績は100点落ちると言われています。しっかりとした理由があり、高校生活を頑張った人で、不合格だった場合でもやり直す覚悟がある人にお勧めの制度です。

で、推薦入試とは？

一口に「学校推薦型」と言っても、そこからさらに分けることができます。以下をご覧ください。

種類	公募①	公募②	指定校
出願期間	11月1日～	共テ後	11月1日～
共テ	可否に関わらない	可否に関わる	可否に関わらない
合格率	高くない	高くない	ほぼ100%
選択肢	大学の選択は自由	大学の選択は自由	募集が来た学校のみ
設置区分	国公私大	国公私大	国立大はない
試験内容	様々	共テ(+α)	様々
合格発表	12月	2月	12月

全部が全部ではないですが、大体上の表のようになっています。「公募制」とは「公(おおやけ)ニ募ル(募集)制度」ですので、条件に合えば全国どこでも好きなように受験することができますが、合格率は大体3割程度です。「指定校」は「あなたの学校の生徒が欲しい」という大学からの「指定」があって初めて成立するものなので、大学からシキタが指定されなければ受験できません。そのため、受験できる大学が限られている上に毎年必ず募集があるとは限らず、また、そのほとんどが私立大学です。国立大にはそもそも指定校制度がありません。

公募②って推薦なの？

「共テ利用するならメリットくない？」と思う人もいると思います。例えば「山形大学人文社会学科人間文化コース」では以下のような違いがあります。

	一般	公募①	公募②
定員	80名	30名	10名
試験科目	共テ(国・数・英・社・理・英)・二次試験(国語)	志望理由書・読書感想文・面接(プレゼン含)	共テ(国・地歴公数から1科目選択・英)・志望理由書
つまり	5教科+二次試験	学力試験なし	3教科

一般入試と公募②を比較した場合、一番目を引くのは入試科目の少なさではないでしょうか。端的に言ってしまうと、「バランスは悪いけどなにか得意な科目がある」人に有利になっているのです。ただし、そういう人が集まってきますので、「ちょっと得意」では太刀打ちできません。

また、下の図は2021年度のものですが、図1のように一般入試よりも合格最低点が低い場合や、図2のように逆転現象がほぼない場合もあります。例えば、共通テストで予定よりも取れなかったけれど、個別試験に課されている科目に自信がある場合には、図1のような「一発逆転」に懸ける価値は十分にあります。また、共通テストで点数は取

ったけれど、二次力に不安があるような場合は図2のような「共テ逃げ切り型」に懸けるのも一つの作戦です。自分の志望大学にどんな入試制度があるか、また、それぞれの入試にどんな特徴があるか、それらをしっかりと調べ、自分にとって少しでも有利な方法で戦いに臨むことが受験を制するカギです。

最後に

志望校が明確である。やりたいことが決まっている。そんな人は大学の「アドミッションポリシー」を確認しましょう。あとはやりたいことを語れるようになってください。「推薦」や「総合型」は語れる人のための入試制度です。進路課は頑張るあなたをいつも全力で応援しています。

得点	共テあり推薦		一般前期	
	合格	不合格	合格	不合格
540	3	7	38	9
530	1	3	1	2
520		2		3
510		1		
500		3		
490				
480		1		
470	1	1		2
460	1			
455				
450		3		
440	1			
430		3		5
人数	7	24	39	19
平均	525	508	603	513

図1

得点	共テあり推薦		一般前期	
	合格	不合格	合格	不合格
650	2		10	1
640			6	
630			5	2
620	2		6	4
610			5	4
600			7	6
590			5	3
580	1		3	7
570			2	1
560	1			5
550			1	4
540		1		1
530		4		10
人数	6	5	50	51
平均	617	514	625	571

図2